



モロッコ事情^{*1}

Daily Life in Morocco

荻野 法一^{*2}

Norikazu OGINO



昨年2007年夏、子供の夏休みを利用し家族をモロッコに帰省させた。私自身も往路は同行し、2年ぶりに10日ほどモロッコに滞在した。

これを機会に、10年ほど前に初めてモロッコを訪れてからこれまで感じて来たこと等を思いつままに紹介したい。

モロッコはどこにある？

実は私自身10数年前まではモロッコがどこにあるか正確に言えなかったし、モロッコのことを話題にするとき、まずモロッコが「アジアのモンゴル」でも「ヨーロッパのモナコ」でもない「北アフリカのモロッコ」であることを話す必要がこれまで多々あったという経験から、最初にモロッコのデータを以下の通り簡単に紹介しておく。

名称：モロッコ王国

首都：ラバ（Rabat：英語ではラバト）

面積：約46万km²（西サハラ除き）

人口：約3,000万人

民族：アラブ人，ベルベル人

言語：アラビア語（フランス語も一般に話す）

宗教：ほぼ100%イスラム教

通貨：ディラハム（1DH=約14円）

モロッコと言えば・・・

モロッコといえばカサブランカ（Casablanca）・マラケシュ（Marrakech）の名前は聞いたことがある方も多いかと思う。（ある男性？タレントのことを思い出される方も多いかと思うが・・・）

妻の実家のある都市、サフィ（Safi）は、マラケシュから200km程離れた大西洋沿岸の港町である。

モロッコは水産業も盛んで日本にはタコを大量に輸出している。（最近では、日本向けに乱獲しすぎたため収穫を制限しているらしいが・・・）



サフィの港

*1 原稿受理 2008年6月9日

*2 (財)日本自動車研究所 FC・EVセンター グループ長

モロッコと聞くと砂漠ばかりの国をイメージする方も多いと思うが、当たり前なことだが一般の人は砂漠に住んでいる訳ではない。

妻の実家のサフィは四季を通じて過ごしやすく住みやすいところである。実は、私の妻は砂漠というところには、生まれてこの方行った事が無い。(何故か日本人の私は行った事があるのだが・・・)

2007年夏日本からモロッコ、サフィへ

以前は、モロッコに行く場合KLMをよく利用していたためオランダ経由であったが、最近KLMとAFが合併したこともあり、2007年の夏はAFを利用、パリ経由となった。

成田からパリシャルルドゴール (CDG) へは飛行時間約11時間、CDGからカサブランカへは約5時間の飛行で、カサブランカには深夜に到着、その夜はカサブランカのホテルに宿泊した。

カサブランカに2泊した後、妻の実家のサフィにはグラン (大きな) タクシーを1,000DHで借り切って移動。

グランタクシーは都市間の移動によく使われる。だいたいボロボロのメルセデスで、普通は運転手を除いて6名が詰め込まれる乗り合いタクシーである。



サフィのグランタクシー乗り場

モロッコ人と車

以前モロッコに長期間 (3ヵ月程) 滞在したとき、仏語教室で一緒に学んでいた若者の一人が帰り道が同じ方向だということで、よく車で送ってくれた。ただ、その車が多分にボロボロなので、いつか故障するのではと気がきでなかった。

あるときいつもの様に彼の車に乗り込んだがエンジンがなかなかかからない。「こりゃあ押しが

けをしなけりゃいけないかな」と思っていたら、いつものことだといった顔で、そのままギアとクラッチ、キーをタイミング良く操作してエンジンをかけてしまった。

実は、いつも傾斜がある場所を選んで車をとめておいて、もしもの場合はその傾斜をうまく使って押し掛けと同じことができるようにしていたのである。その時の彼の手際の良さは今も鮮明に覚えている。

モロッコ人は器用な所があり、自動車の運転もうまい。



マラケシュの道路

私自身は現地では運転をしたことは無いが、モロッコ独特の暗黙の交通ルールがあるようで、運転は大変荒っぽく、せっかちで怖い。

いつもは時間に縛られない大らかでゆったりとした生活をしているのに、何故車を運転している時はあれだけせっかちなのか不思議で仕方がない。

話し好き

モロッコ人は大変話し好きである。

どれだけ話す話題があるのかというぐらいずっと引切り無しに話し続ける。

妻が実家に電話するときも、まず「〇〇は元気か、□□は元気か・・・」といった挨拶から始まり、相手が変わったらまた同じように「〇〇は元気か、・・・」ということを繰り返して、なかなか用件に入らない。

結婚して最初のころは今の様にIP電話も無かったので電話代が大変嵩んだ。今ではモロッコの実家もインターネットを導入しており、タダでTV電話が出来るようになった。インターネットの威力には驚くばかりだ。(話し始めるとなかなか電話

が終われないという弊害はあるが・・・)

反対に妻からは、私が親戚や友人への電話で用件だけ話してすぐ切ると「久しぶりに電話したのに何ですぐ切るのか？」と大変不思議がられる。

また、妻が日本に来て最初のころ「何故近所の人は家にお客を入れずに玄関で話すのか。」と不思議がっていた。

モロッコでは来訪者があると必ずといってよいほど居間まで通してお茶とお菓子を出す。お菓子も大量に作り置きしておいて、きれいに盛り付けて出す。そして、また長いおしゃべりが始まる。



モロッコの居間（ソファはそのままベッドとしても利用でき、大量のお客が来たときはここで寝る。）



盛りつけられたお菓子

ある時全く知らない男女のカップルがなかなか帰らないと思っていたら、そのまま2・3日滞在したことがあった。後であれば誰かと聞いても、誰々の知人という程度の答えしかない。その二人とはその後二度と会うことは無かったが、こんな感じで遠い親戚とか友人の友人といった人たちが何日も泊まっていくことがよくある。

モロッコに個人旅行される方が居たとしたら、まず隣に座った人から色々話しかけられることを

覚悟しておいた方がよい。泊まる場所が決まっていなことが分かったら、「私の家に泊まれ」と言うてくることもあるだろう。お金目当ての人も居るかも知れないが、本気で旅人をもてなしたいと思っている人が多い。

鶏とムトン

モロッコの鶏肉屋さんでは、生きたまま鶏がかごに入れられていて、お客はそこから鶏を選び、その場で捌いて処理してくれるのが一般的である。

またイスラム社会では犠牲祭があり、ムトン（羊）を各家庭で捌くという儀式がある。アパートのような所でもムトンを捌ける場所がちゃんと用意されている。

この時、捌くのが得意な親戚・知人が順に回って来てくれる。一度その様子を見る機会があったが、感心するほど手際よい。

モロッコの子供たちは小さいときからその様な場面を見る機会が多くあり、人々の生活が色々な生き物たちの犠牲に成り立っていることを実感できる。

日本も昔の田舎ではそういった場面が身近にあったと聞いているが・・・

お酒

モロッコはイスラム社会ではあるが、寛容なところがあり、敬虔な人もいればそうでない人も居る。ビール、ワインが国内で生産されており、「それは外国人向けだ」と言っている人もいるが、カサブランカでは夜街中で酔っ払って歩いているモロッコ人をよく見かけた。

ラマダン

その様な不真面目な人間も、ラマダン（断食月）は、敬虔なイスラム教徒になって、酒もタバコもやめるようである。

ラマダンというのは、イスラム暦の第9番目の月の名前で、ラマダンの間は、日の出から日没まで何も口に入れない。

従って、いくらのがが渴いても昼間は水も何も飲めない。人によっては唾も飲み込まないという人も居るらしい。（そこまでやる必要はないと妻は言っているが・・・）

その為、日が沈むと夜は豪勢な食事が待ってい

る。ラマダン期間中はいつも以上に夜のお客の出入りが多く、皆でラマダンを祝うという感じである。日本の田舎でのお正月が1ヵ月続くことをイメージしてもらえると良いだろう。

ところで、子供や病人は断食を免除されるが、それでは子供はいつから断食を始めるのかということをよく聞かれる。私もその点を疑問に思っていて聞いて見たら「いつからという取り決めはない。ラマダンが出来るようになれば大人の仲間入りをしたと認められる」ということだった。

ちなみにイスラム暦は月齢で定められているので、毎年10日程度ラマダンも前にずれてくる。

今年は9月2日頃から1ヵ月間の予定だが、東京ではおおよそ朝の4時から夜の6時まで飲み食いが出来ないことになる！！（今年のラマダンは疲れるだろうなあ・・・）

モロッコの幼稚園

上の娘が4歳のときに、マラケシュの幼稚園に2ヵ月ほど入園させたのだが、その幼稚園ではフランス語とアラビア語の授業、さらには算数の授業まであった。

下の娘が丁度今4歳で、日本の幼稚園に通っているが、毎日お遊戯的なことしかしていないようで、モロッコとの違いを大いに感じる。

お昼休み

普通モロッコ人はお昼の休み時間を3時間程度と長くとり、その間に一旦自宅に戻って家族で食事をするのが一般的である。しかし、カサブランカの様な大きな都市ではお昼休みは会社で過ごすようになって来たようで、最近ではサフィのような田舎もそうなりつつあるとのことである。



カサブランカの海岸

ヴァカンス

モロッコ（フランスもだが）を訪れると「何故こんなに短い休暇なのか」といつも責められる。

モロッコでは一般的に普通のサラリーマンも1ヵ月程度連続でヴァカンスを楽しむ。妻によるとヴァカンス中は出費が多くなるということで一般に給料が2倍支払われるとのことだ。その他にも何かと休みが多いようである。

日本のマンガ

フランスでもそうだが、ドラゴンボール、ポケモン、最近では遊戯王が大人気である。

その他にもびっくりする位色んな日本アニメがTVで放映されている。

妻に聞くと昔から日本のアニメはモロッコでも放映されていたようで、「懐かしのアニメ」を紹介する日本の番組で、子供のころ見ていた番組を何本か見つけてたいそう感激していた。



マラケシュのとある街かど

さいごに

日本とモロッコは遠く離れ、関係も少ないように感じるが、水産業でのつながりは深く、日本からの観光客も近年大幅に増加している。

最近日本の自動車メーカーがモロッコに工場を立地するという発表もあったが、日本とモロッコの関係が今後さらに深まることを大いに期待したい。